

神戸大学における内部質保証システム構築に向けた取り組み

神戸大学 企画評価室
准教授 浅野 茂

国際シンポジウム「グローバル化時代における私立大学の質保証第3回」報告資料
2013. 03. 12（於：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー26階 スカイホール）



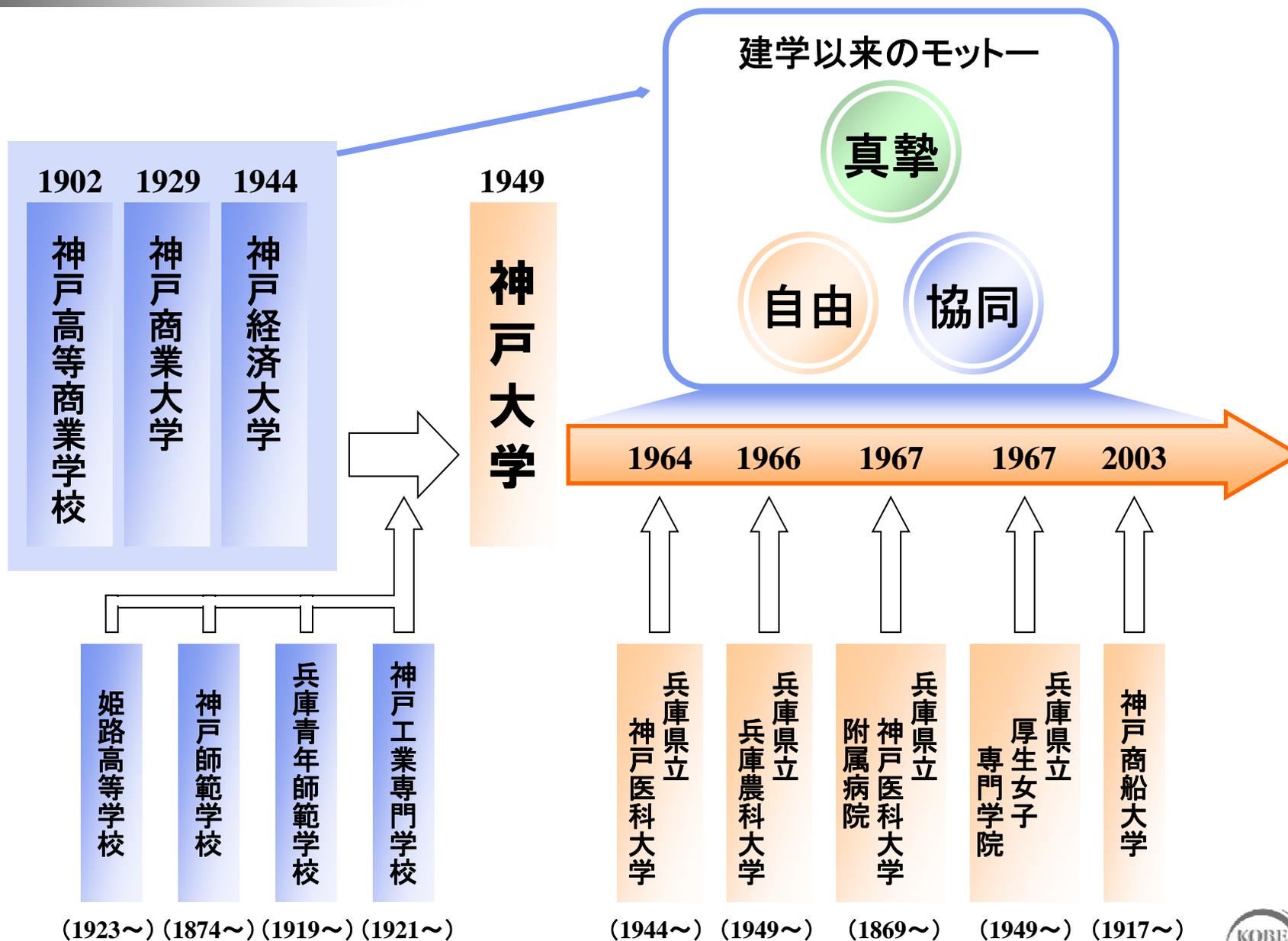
1. 神戸大学の概要

2. 質保証に係る取組

3. 学習成果の測定 / 把握に係る取組

4. 課題と今後の展望

1. 神戸大学の概要～沿革～



1. 神戸大学の概要～組織及び構成員～

	在籍者数	教職員数
学部 → 11 文学部、国際文化学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部、理学部、医学部、工学部、農学部、海事科学部	11,861	3,437 教員:1,505 職員:1,813 (看護師含む) 教諭: 119
大学院 → 14 人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、理学研究科、医学研究科、保健学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、農学研究科、海事科学研究科、国際協力研究科	4,356	
専門職大学院 → 2 法学研究科実務法律専攻(法科大学院)、経営学研究科現代経営学専攻(社会人MBA)	341	
その他 附置研究所、附属病院、自然科学系先端融合研究環、機構、学内共同教育研究施設等	計16,558	
附属学校部 附属幼稚園、附属住吉小学校、附属明石小学校、附属小学校、附属中等教育学校、附属特別支援学校	1,548	

国立大学法人の中でも学部数は2番目に多く、学部学生数も5指に入る規模

(組織は平成24年4月1日、員数は平成24年5月1日現在)



2. 質保証に係る取組～【参考】 内部質保証に係る評価基準～

大学評価・学位授与機構

基準8 教育の内部質保証システム

- 観点8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。
- 観点8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。

大学基準協会

基準10 内部質保証

- 大学は、その理念・目的を実現するために、教育の質を保証する制度を整備し、定期的に点検・評価を行い、大学の現況を公表しなければならない。

【解説】

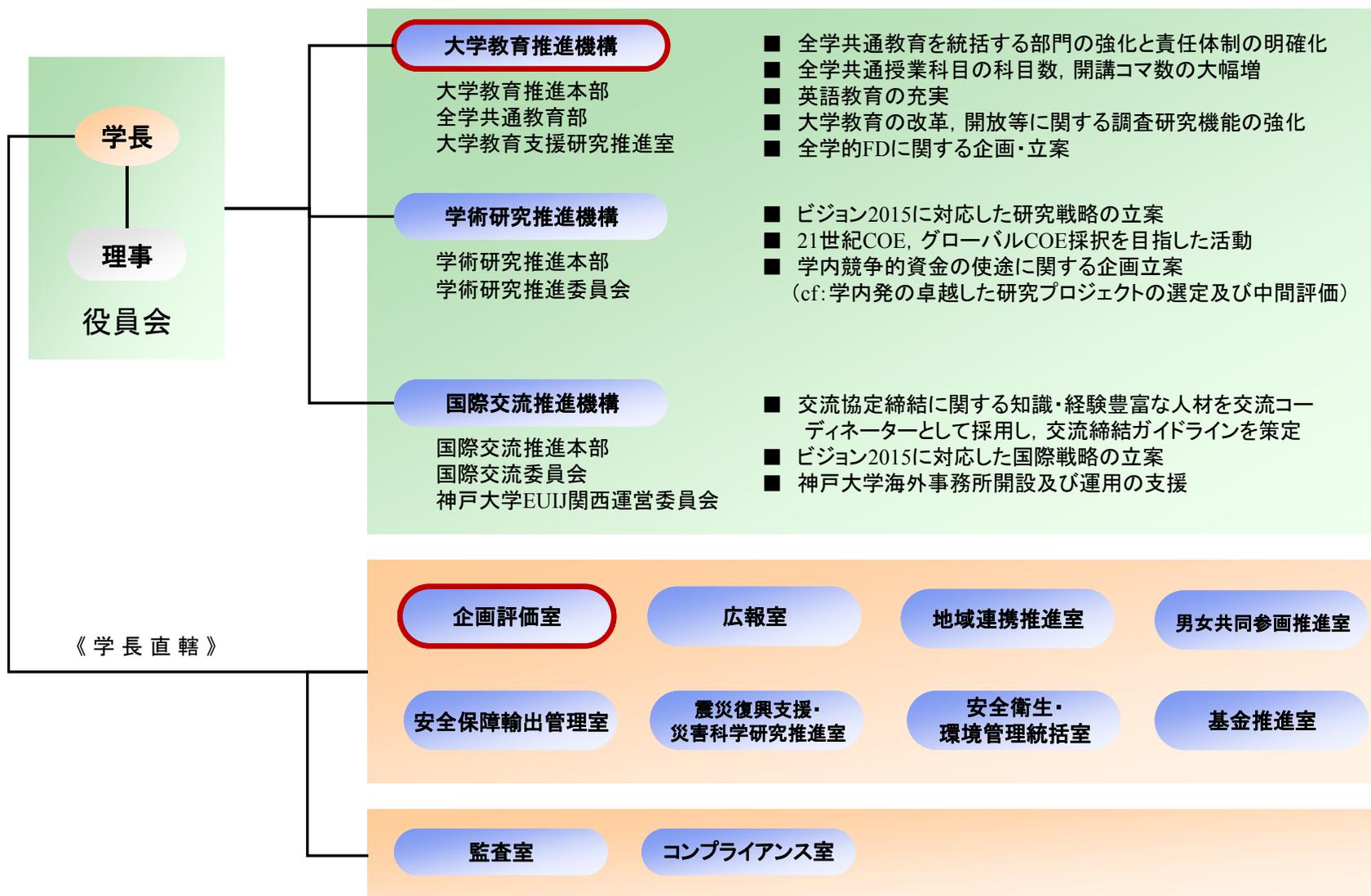
大学は、社会の負託を受けた組織体であることに鑑み、組織運営と諸活動の状況について積極的に情報公開し、社会に対する説明責任を果たすことが必要である。

また、大学が、自律的な存在として機能するためには、自らの活動を点検・評価し、その結果を公開するとともに、改善・改革を行うことのできる組織でなければならない。大学の質を保証する第一義的責任は大学自身にあることから、大学は自らの質を保証する(内部質保証)ための組織を整備するとともに、内部質保証に関する方針と手続きを明確にする必要がある。

また、内部質保証システムを十全に機能させるためには、自己点検・評価の客観性・妥当性を高めるための工夫を講じるとともに、自己点検・評価の結果を改善・改革に繋げることが重要である。



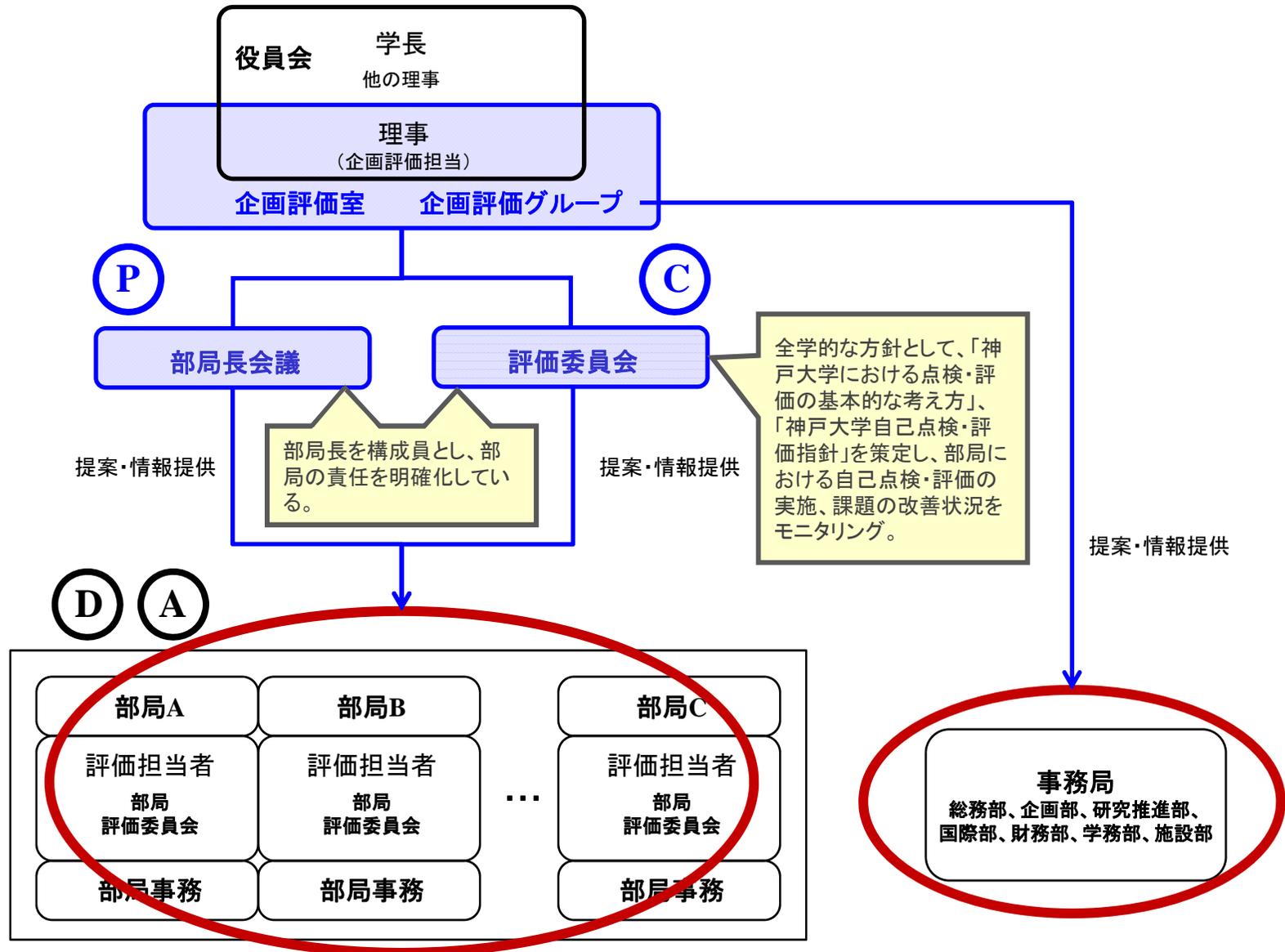
2. 質保証に係る取組～内部質保証システムの体制(1/3)～



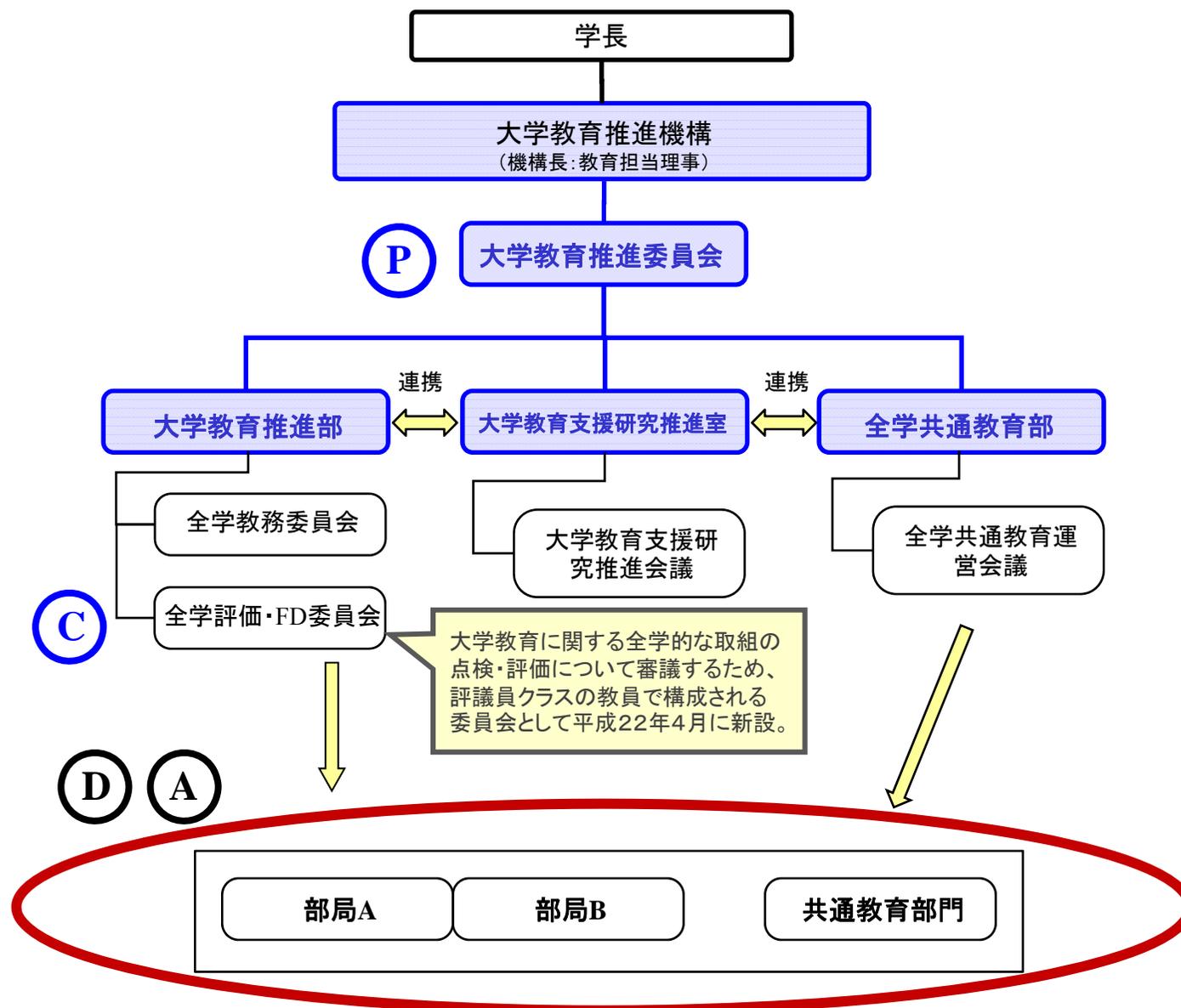
(平成24年4月1日現在)



2. 質保証に係る取組～内部質保証システムの体制(2/3)～



2. 質保証に係る取組～内部質保証システムの体制(3/3)～



2. 質保証に係る取組～質保証のための3つのポリシー～



神戸大学
学位授与の方針



神戸大学
教育課程編成・実施の方針



点検・評価の基本的な考え方、
自己点検・評価指針等

※Assessment Policy(AP)

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/index.html>

2. 質保証に係る取組～点検・評価の基本的な考え方、自己点検・評価指針～

- 平成16年度 「神戸大学における点検・評価の基本的な考え方」を策定

点検・評価の理念

- (1) 理念・使命に基づいた点検・評価
- (2) 外部の視点を取り入れた点検・評価
- (3) 証拠に基づいた点検・評価
- (4) 合理的、効率的な点検・評価
- (5) 自らも改善する点検・評価

フレームワークに関する
全学的合意形成

- 平成19年度 「神戸大学自己点検・評価指針」を策定

点検・評価の単位

本学における点検・評価は、以下の単位で実施するものとする。

- (1) 各部局等の長 (大規模な部局にあつては学科や専攻の長など) による所属教員の教育研究活動等の年次点検 (「教員点検」)
- (2) 各部局等の長 による所属教員の教育研究活動等の評価 (「教員評価」)
- (3) 各部局等の長 による「組織点検・評価」
- (4) 神戸大学評価委員会による各部局等の「教員点検・評価」及び「組織点検・評価」に対する点検・評価 (「メタ点検・評価」)
- (5) 神戸大学評価委員会による大学の総括的 point 検・評価

学問分野の多様性に配慮した
評価体制の整備

部局の独自性・主体性を
尊重

2. 質保証に係る取組～教育の質向上のための評価指標(1/2)～

教育の質向上のための評価指標及び申し合わせ

大学機関別認証評価の評価基準を参考に、平成22年3月に策定

- 教育課程の体系的に編成する仕組み
 - カリキュラムマップ
 - 単位の実質化に配慮したシラバス
 - 単位の実質化に配慮した成績評価基準

- 教育の実践及び成果に係る組織的な検証
 - 授業評価、卒業・修了時、卒業生や就職先アンケート、学生生活実態調査等に係る組織的な検証

- 教育に係る点検・評価及びその結果に基づく改善・向上の実施状況
 - 評価結果に基づく教育課程の見直し等
 - FDの組織的推進と改善への反映
 - TA等教育支援者や補助者の教育活動向上

2. 質保証に係る取組～教育の質向上のための評価指標(2/2)～

自己点検・評価リスト(案)の検討

評価指標	D	C	B	A	S
教育目標・学習目標	教育目標・学習目標・学習成果が設定されていない。	教育目標は設定されているが、学習目標・学習成果は設定されていない。 ・また、公表もされていない。	教育目標・学習目標・学習成果が設定されているが、公表されていない。	教育目標・学習目標・学習成果が設定され、公表されている。	学習成果が行動目標として設定され、ウェブで公表されているのみならずシラバス等にも記されている。
教育課程					
組織的検証					
教育方法・学修時間					

教育の質向上のための評価指標を自己点検・評価する際のチェックリストとして、ループリックの作成を教育評価・FDWGにおいて検討中。

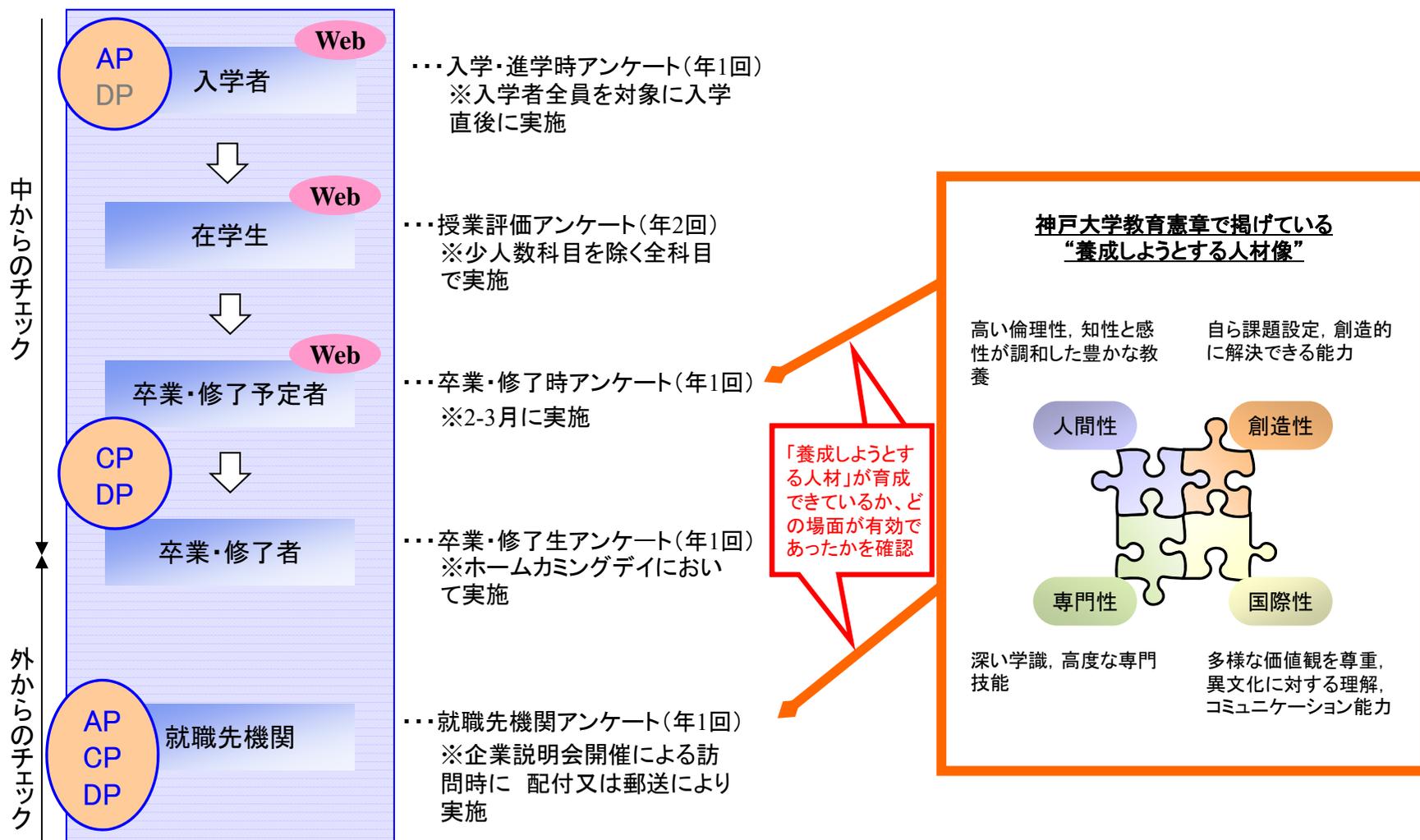
次年度には、全学委員会で審議のうえ、部局での自己点検・評価に活用する予定。

3. 学習成果の測定/把握に係る取組～測定に際しての参考枠組み～

評価対象	評価者	測定軸	測定手法
知識・理解	教員	直接	試験(客観式), 科目試験
		間接	成績, GPA, 単位取得, 留年・進学等
態度・技能	教員	直接	試験(口頭/論述式), 観察/パフォーマンス評価, 学習ポートフォリオ
	学生	間接	各種アンケート, 新入生/学生/卒業生調査
	学外者	間接	就職機関または企業等へのアンケート
全て	教員	直接	卒業論文, 研究, 作品制作
	学生・学外者	間接	進路状況

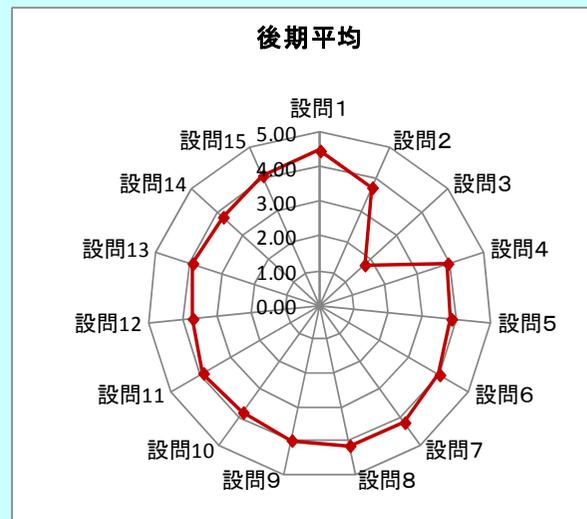
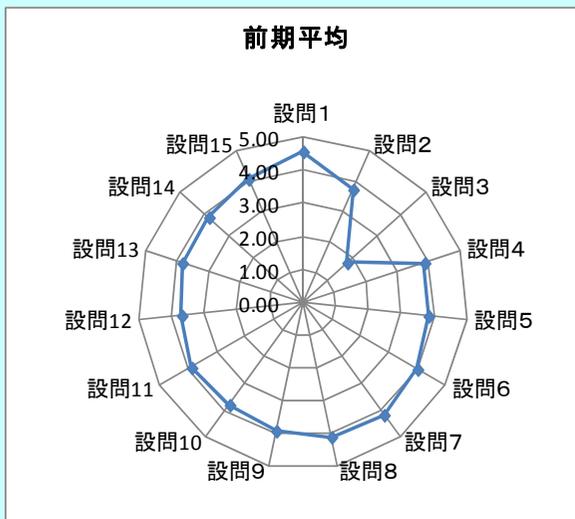
出典：鳥居(2012), 山田(2011), 渋井他(2012)を参照し、報告者が一部修正。

3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(1/7)～

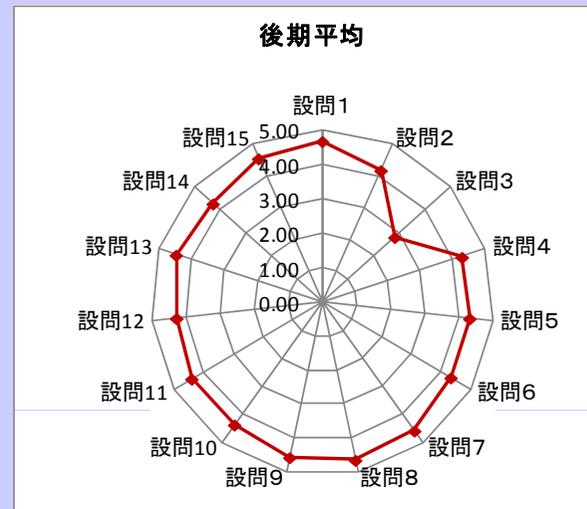


3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(2/7)～

学部

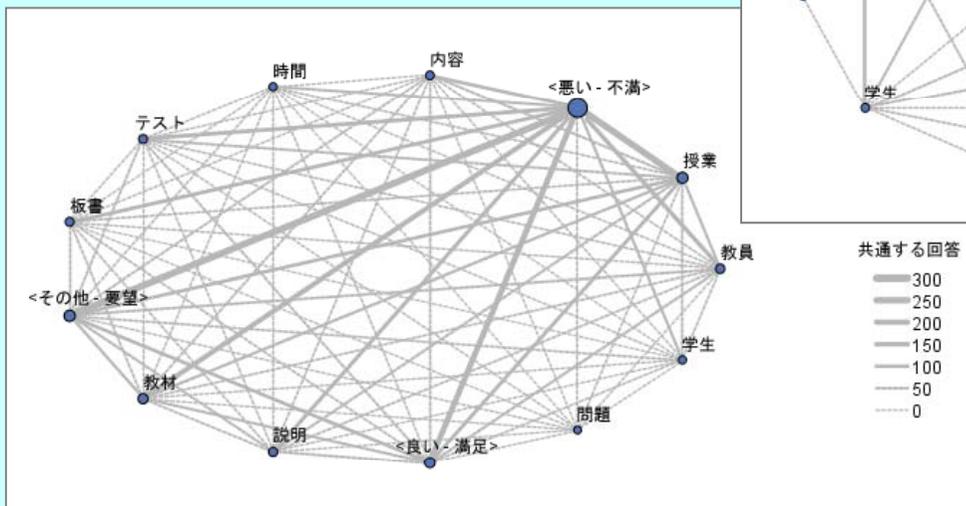
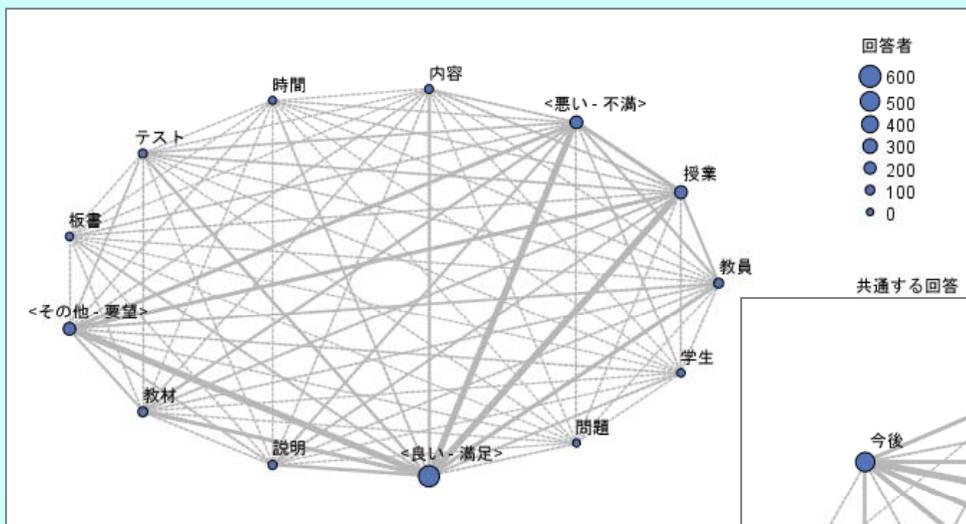


大学院

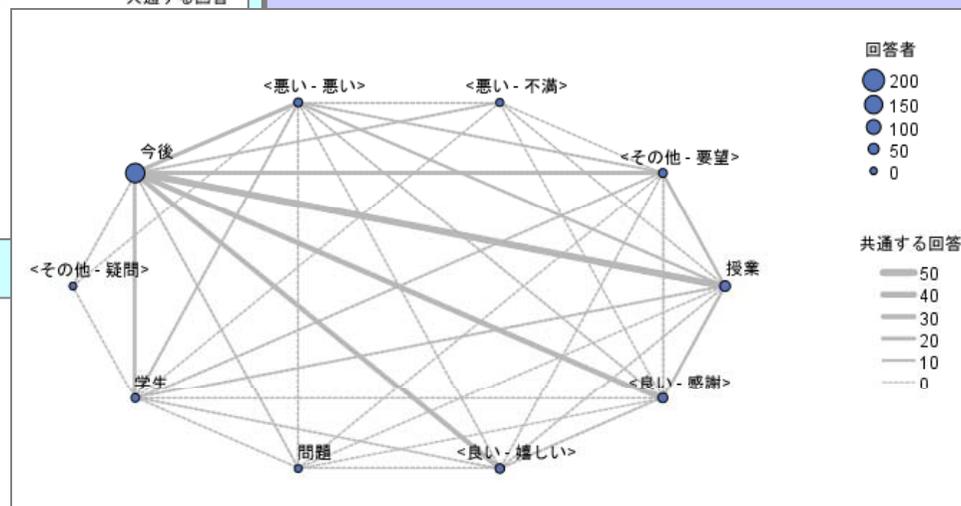


3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(3/7)～

学生コメント



教員コメント



3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(4/7)～

	習得の程度※1					習得の場面※2									
	5	4	3	2	1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
深い学識	<input type="checkbox"/>														
高度の専門知識	<input type="checkbox"/>														
英語等の外国語能力(注1)	<input type="checkbox"/>														
総合的なものの見方	<input type="checkbox"/>														
高い倫理観	<input type="checkbox"/>														
課題を設定し解決していく能力	<input type="checkbox"/>														
コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/>														
多様な価値観・異文化に対する理解	<input type="checkbox"/>														
プレゼンテーション能力	<input type="checkbox"/>														
コンピューターを使う(情報処理)能力	<input type="checkbox"/>														

※1 習得の程度

5. 大いに身についた
4. どちらかといえば身についた
3. どちらともいえない
2. どちらかといえば身につかなかった
1. 全く身につかなかった

※2 習得の場面

- A 学部または研究科で専門教育の講義・演習・実験を受けたこと
- B 修了(学位)研究を行ったこと
- C ゼミ・研究室に所属し指導教員から直接指導を受けたこと
- D 先輩から教育・研究の指導を受けたこと
- E TA(ティーチングアシスタント)・RA(リサーチアシスタント)を行ったこと
- F プロジェクト研究・共同研究を行ったこと
- G 学生同士の勉強会・研究会に参加したこと
- H 学会や学外の研究会等に参加したこと
- I 社会活動(ボランティア等)に参加したこと
- J その他

(注1)「英語等の外国語能力」で「その他」を選択された場合、できれば具体的な内容を記述してください。



3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(5/7)～

卒業時アンケート

学部	在学中に習得した能力										卒業満足	入学推奨
	幅広い教養	専門知識・技能	英語等の外国語	総合的な見地	高い倫理観	課題設定・解決	コミュニケーション	価値観・異文化理解	プレゼンテーション	情報処理		
A学部	3.9	3.8	2.9	3.9	3.3	4.1	3.7	4.0	3.6	3.7	4.6	4.3
B学部	4.2	3.6	3.2	4.3	3.7	4.1	4.6	4.6	3.4	3.9	4.6	4.5
C学部	4.1	3.8	2.5	4.0	3.6	4.0	4.0	4.1	3.6	3.6	4.4	4.1
D学部	4.3	4.2	2.4	4.2	3.8	4.2	4.2	4.0	4.3	3.4	4.7	4.4
E学部	3.9	3.9	2.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	3.7	3.7	4.3	4.2
F学部	3.7	3.6	2.7	4.2	3.7	4.2	4.0	3.7	3.8	3.3	4.5	4.5
G学部	3.9	3.8	3.1	3.7	3.4	3.8	3.7	3.6	3.7	3.1	4.7	3.7
H学部	3.9	4.4	3.7	4.0	3.9	4.1	4.3	3.8	3.9	3.4	4.9	4.6
I学部	3.7	4.2	2.5	4.0	3.8	3.6	3.8	3.8	3.2	3.1	4.1	3.8
J学部	3.9	4.0	2.7	4.0	3.6	4.1	4.0	3.4	3.9	4.3	4.5	4.2
K学部	3.6	3.7	3.4	3.8	3.3	4.1	4.0	3.9	4.2	3.7	3.9	3.5
L学部	3.7	3.6	2.4	3.7	3.0	3.7	4.2	3.7	3.9	3.8	4.2	3.9
全学	3.9	3.9	2.8	4.0	3.6	4.0	4.0	3.9	3.7	3.7	4.5	4.2

就職先アンケート

全学	4.0	3.6	3.3	4.2	4.0	3.8	4.0	4.0	3.8	4.0
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

卒業直後の学生の評価と就職先の評価を対比することで、学習成果をより多面的に捉えることができる。

卒業生アンケート

全学	20.8%	24.1%	-	14.7%	-	13.1%	11.9%	-	3.4%	3.4%
----	-------	-------	---	-------	---	-------	-------	---	------	------

獲得能力に対する卒業から一定年度を経た卒業生、入学時の学生の評定を参考にDPの妥当性を検証。

入学時アンケート

全学	17.8%	20.6%	16.3%	9.3%	1.8%	5.6%	14.4%	3.8%	5.7%	4.8%
----	-------	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	------



3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(6/7)～

習得能力と獲得場面を確認することで、CPの妥当性を検証。

獲得場面	習得能力	在学中に習得した能力									
		幅広い教養	専門知識・技能	英語等の外国語	総合的な見地	高い倫理観	課題設定・解決	コミュニケーション	価値観・異文化理解	プレゼンテーション	情報処理
1.全学共通の講義等		55	6	83	16	18	4	2	31	7	42
		0.19	0.02	0.29	0.06	0.06	0.01	0.01	0.11	0.02	0.15
2. 専門教育の講義等		81	84	26	66	45	45	20	47	40	65
		0.28	0.29	0.09	0.23	0.16	0.16	0.07	0.16	0.14	0.22
3.卒業研究		18	64	13	21	10	79	7	7	58	58
		0.06	0.22	0.04	0.07	0.03	0.27	0.02	0.02	0.20	0.20
4.指導教員の直接指導		45	81	15	57	32	65	32	22	95	24
		0.16	0.28	0.05	0.20	0.11	0.22	0.11	0.08	0.33	0.08
5.先輩からの指導		4	9	3	6	7	4	9	2	6	12
		0.01	0.03	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03	0.01	0.02	0.04
6.プロジェクト・共同研究		0	1	2	2	1	7	3	0	2	3
		0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01
7.学生同士の勉強会等		3	1	1	5	7	2	17	14	9	0
		0.01	0.00	0.00	0.02	0.02	0.01	0.06	0.05	0.03	0.00
8.学会や学外の研究会		5	1	3	1	1	2	2	4	3	0
		0.02	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00
9.課外活動への参加		40	5	9	61	65	49	120	65	15	10
		0.14	0.02	0.03	0.21	0.22	0.17	0.42	0.22	0.05	0.03
10.社会活動への参加		6	0	5	6	16	4	17	13	3	0
		0.02	0.00	0.02	0.02	0.06	0.01	0.06	0.04	0.01	0.00
11.その他		32	37	129	48	87	28	60	84	51	75
		0.11	0.13	0.45	0.17	0.30	0.10	0.21	0.29	0.18	0.26



3. 学習成果の測定/把握に係る取組～各種アンケートの設計及び実施(7/7)～

- 全学共通項目によるアンケートを通じて全学部・研究科の状況を俯瞰
- 質問項目の選定、実施方法等の検討を一体的に行い、内部の課題把握のみならず各種評価において教育成果を示す根拠資料として活用
- 各種アンケートの評価結果は全般的に肯定的。在学中に習得した知識・スキルまたは態度についても、卒業・修了直後の学生、卒業・修了から一定年度を経た学生、さらには採用された機関等での評価が一致していることを確認
- 自由記述に係る質問項目のテキスト分析を行い、定量的な数値と定性的な情報を併せて提示

【改善例】

- 教育環境・設備、学内アメニティ等に対する否定的な評価結果を受け、平成19年度以降の耐震補強工事と併せてスペースの有効活用のための再配分を行い、平成21年度以降のアンケートにおいて、統計的に有意に上昇していることを確認
- 在学中にもっと身につけておくべき能力として「英語等の外国語能力」が一貫して多くの学生に選択されていたことを受け、その対策を検討。平成24年度からは大学負担で各学部において英語外部試験(TOEIC/TOEFL)の受験を促進



5. 課題と今後の展望(1/2)

課題

- 回答率の向上
 - ・質問項目のスリム化
 - ・モバイル端末対応
 - ・周知方法の工夫等
- 評価を中心とした活用からの脱却
 - ・部局及び全学レベルのFD
 - ・学生との対話の場

展望

- 分析手法の高度化
 - ・各種アンケート結果の統合とその分析
- 学習成果の多面的な把握
 - ・間接評価のみならず直接評価との組み合わせ
 - ・学びのプロセスに応じた測定方法

ご清聴、ありがとうございました。



since 1902

For 110 years and beyond

報告に対するご意見・ご質問等ございましたら、以下のメールアドレスまで
お願いいたします。

asano@people.kobe-u.ac.jp

※本報告の準備に当たり川嶋太津夫教授(神戸大学 大学教育推進機構)の協力を得ました。

